

二年ぶり完全優勝…春季虎塚杯

西中根ソフトボールクラブ
主将 小林 定吉記

海野正巳新監督体制でスタートした今シーズン、主力2名(藤谷健一、利根川和幸)が引越し・転勤で抜けた穴をどう埋めようか、悩みながらのスタートでしたが、中堅2名(高下浩司、須賀野貴志)が入部。市内大会こそ初戦敗退したものの、一中学区大会は三位入賞(準決勝で強豪&優勝した大平に敗退)、そして7月3日に行われた春季虎塚杯では、決勝で東中根を破り、予選、決勝合わせて3試合すべて完勝で2年ぶりの完全優勝を果たした。20歳から70歳手前までバラエティーに富んだメンバーが心ひとつに戦った結果でした。試合後、上野公園で行った表彰式兼懇親会では、参加6チームが互いの善戦を称えながら杯を交わし、地域間の懇親を深めることができました。シーズン後半の秋季市内大会、秋季虎塚杯でも優勝目指して頑張りますので、引き続き応援を宜しくお願ひいたします。



試合前の引き締まる面々



優勝して格別の笑顔



元四番(克一) 連続HR(雄太) 打たないで(さやか)

いい感じ?(今泉) 落とすなよ~(正巳) 主役は右(大森)



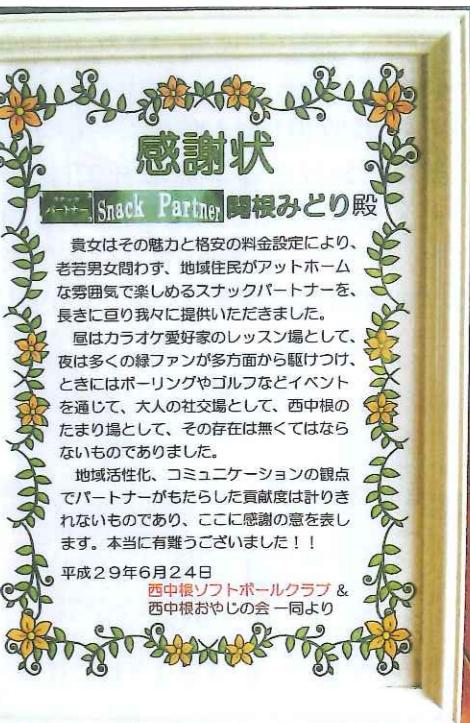
パートナーさん、ありがとう！

西中根内外から親しまれてきたスナックパートナー(関根みどりさん経営)が6月を以って閉店しました。開店から9年余り、昼はカラオケ愛好家の道場として、夜は各種イベントの打上げや仕事帰りの一杯、酒好き、唄好き、話し好きが集う地域の社交場として、大変お世話になりました。行き場を失った人は沢山いますがこれも時代の流れ、これまでの地域貢献に感謝の意を表しご紹介いたします。



感謝の会(6月24日)

ソフトボールクラブ&おやじの会
有志一同



感謝状

六美会写真クラブ
神原勝也記

写真展

第3回写真展を6月3日に開催。作品は昨年と同じ25点です。大勢の皆様にご観覧いただき素直なご意見や感想をいただき、有難うございました。



会場中央にはさつき愛好家の作品と西中根ジュニア生花教室の作品を飾っていただき、明るい会場となりました。ご協力ありがとうございました。



春のバーベキュー(4月29日)



春のゴルフコンペ(5月3日 @ 日立高鈴GC)

満四歳を迎えたおやじの会

西中根おやじの会
会長 高野 義明記

この4月よりおやじの会会長を引き受けました高野です。宜しくお願ひします。おやじの会は発足から満4年を迎えました。今年度も沢山のイベントを実施し、地域や学校行事も含めて家族友人ワイワイ楽しくコミュニケーションを図っております。先般、新たな会員も迎え入れ、益々充実した活動を展開してまいります。眼下、夏まつりに向けて準備中ですのでお楽しみに！ 尚、新規会員随時募集中です。年齢は問いません。是非一緒に楽しみましょう！※ホームページ → <http://www.geocities.jp/nishinakane01/>

私は今年の1月で満83歳になった。会社定年を期に別会社に移った頃に、山歩きを始めたのが60歳の時だから、山歩きは23年の経験になる。

以前では21歳の時富士山に登ったのがたった一回であり、その山歩きは、無我夢中の状態での山歩きで、記憶に残ることと言ったら、須走登山口一合目(当時車ではそこまでしか行けなかつた)から急坂道を約7時間かけて登り苦しかったことと、真夏なのに八合目以上は真冬と同じ寒さでつらかったことぐらいであり、以下は60歳から初めて山歩きを開始することにする。

最初の山歩きは、「茨城県内の山を歩こう」をテーマに、自衛隊OBの山歩き会が発足したため、最初から妻と一緒に加入したものであった。

それまで、民間の会社にあり営業時間はあって無いに等しいありさまで、休日も出勤するといった生活が続いていたので、運動不足がたり、後から思えば恥ずかしい限りだが、少し傾斜がきついと息があがり、こんな大変ことならやらなければ良かったなどと、思ったりしたものだった。

それでも63歳までは、年10回程度の山歩きであったもので、少しあつについて歩くことができるようになった。すると低山でも山頂に登る達成感や、景色の素晴らしさが目に入るようになってきて楽しさを感じるようになってきた。

さらに別会社も定年になったので、少しでも山歩きの基礎が知りたいと思い探していた時期に、市の生涯学習で山歩きの講座に運よく入講することができた。そのとき茨大の先生より、山歩きの基礎である、地図判読や計画の立て方などの講義を受けることができたので、その後の山歩きにのめり込んでいくことになったのだった。

その講座で、学級長をやらされていたので、講座が終わりに近づいたころ、先生より自主企画で会の立ち上げを依頼され、65名で会を発足させ、活動することになった。

その時期に、西中根の女性グループより、私たちも山歩きをしたいから、まとめて連れてって欲しいとの話が舞い込み、山の会が発足し、その会は名称を「山びこの会」とし「安全で楽しい山歩き」を合言葉として、年間10回の山歩きを行い、日帰りを9回、豪華ホテルでの懇親会を含めた山歩きを1回として、今年で20年目を迎えている。

「山びこの会」の活動範囲は、北は東北の岩手あたりまで、西は岐阜・長野あたり、南は伊豆半島あたりまでと幅ひろく活動した。回数も「山びこの会」のみで下見を含めれば350回に近い山歩きを楽しんでいる。

グループの山歩きは、特に翌年の計画は前年の10月頃に、山の場所やホテル・バスまで予約するため、必ずその日は体調を整えておくことと、引率をするため、体を鍛えておくことが要求されるのである。

そのため安全確保から下見は勿論としても、下見の下見や訓練を兼ねての山歩きを、83歳の現在も週1回を目標として、山歩きを続けているので、結果として、体調や病気で行事を休むこともなく実行していられ、健康でいられたのだろうと感謝しているところです。

私個人としての山歩きの実績は、山頂を極めた回数が、平成21年5月で1000回を達成し、平成29年3月14日には、東京都奥多摩「御岳山」を年齢83歳と2ヶ月目に1500を達成することができた。このような今の健康が維持できているのは山歩きのお蔭と感謝している。

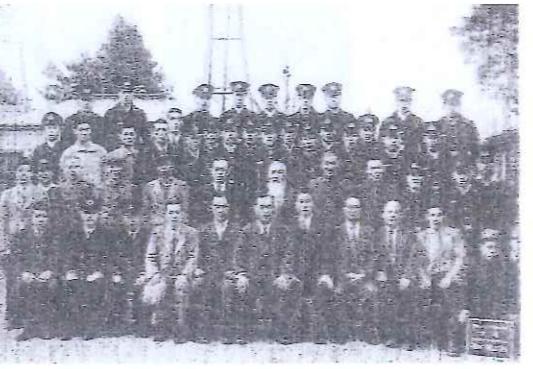


待に待った“西中根のスカイツリーが建ったぞ”と分団員や取り巻きの歓喜が聞こえる昭和32年3月落成の火の見櫓。写真の持主は1班宿ノ内組の海野弘子さん。櫓のあった場所は吉田神社左側の消防分団詰め所があつたところで、防火水槽がその痕跡を残している。

当時西中根は東中根(今の中根自治会)の一つの班で西中根区であった。親元の東中根には昭和28年に火の見櫓が落成したと勝田市消防本部発足40周年記念「消防の歩み」に掲載されている。実際に立派な東中根分団(今の消防第10分団)落成式典の写真が納まっている。

高い建物の無いところに写真のような塔が建つことの喜びは、今日流の西中根スカイツリーだったかもしれない。

昭和36年ごろに今会館前の放送塔のあたりに移設され、その後の足取りは明らかではないが、昭和47年笠野に建設された新消防庁舎の望楼で火の見櫓は無用となり、電



東中根分団火の見櫓落成 昭和32年

話の普及で昭和56年には市の望楼監視業務もなくなり、また、先の東日本大震災の被災で望楼も撤去された。



第四分団火の見完成記念
(昭32.3.9 照山鉄工場製)

あとがき

◎ひろば投稿の大澤良司さんは、運命学会にも所属され、こと安全に関して先を見通す秘めたパワーの持ち主です。

このパワーが山歩きの緻密な準備の心構えに通じているでしょう。また、大澤さんは自主防災会の重鎮として、防災の訓練計画、防犯のパトロール計画の立案にあたって、山歩きで培われた緻密な計画性をもて、自治会皆さん指導にあたって頂いている。

◎2班1組の太田均志さん、1月の県福祉法人の“わくわく美術展”写真の部で「県知事賞」を受賞。おめでとうございます。

昨年の東京よさこい祭りで幸運にもアフリカ系の3世代4人の家族に巡り合い、受賞作品「ファミリー」が生まれた。家族の笑顔と元気な目線が飛び込んでくる作品。この美術展の全国展が9月に秋田であり、各県の知事賞作品が出展され、さらなる賞が期待される。

◎1班の後塙1組と2班2組の居住地区の竹と雑木が生い茂った耕作放棄地があり。この伐採に周りの皆さんが立ち上がり、この意気込みのもと、海野富男さん、横須賀幸造さんをはじめ多くの支援のお陰で1年越しに完遂できた。皆さんのご苦労、“為せば成る”の熱き絆を見ることが出来ました。すばらしい。



○お詫び:広報紙が皆さんのお手元に届くのが次の配布日になりました。あしからず。編集員一同